

## 哺乳類 Mammals

山口喜盛<sup>1)</sup>

Yoshimori Yamaguchi

### 要約

- ・2004年から2006年まで、丹沢山地に生息する哺乳類の調査を行った。現地調査に加えて、過去の文献や筆者の観察記録をまとめて目録を作成した。
- ・丹沢山地に生息している種として、前回の総合調査では在来種15科32種（絶滅種2種を含む）、外来種6科7種が挙げられた（浜口ほか, 1997）。今回の調査では、在来種15科38種（絶滅種3種を含む）、外来種5科7種が挙げられた。このような種数の増加は、前回総合調査の後、翼手類などの小型哺乳類の生息調査が精力的に行われたからである（山口ほか, 2002; 山口, 2003 など）。
- ・丹沢山地において明治以降絶滅した種はニホンオオカミとカワウソである。近年の記録のないオコジョも絶滅した可能性が高い。ヒメヒミズは極めて少数が生息しているものと思われるが、最近の調査で確認できていないことから（山口, 2003; 中山・若代, 2007）、今後詳しく調べる必要がある。カワネズミは生息情報が少ないため、実態はつかめていないが広く分布しているものと思われる。本種は河川に沿って線状に生活域を持つため、河川環境の変化の影響が懸念されている。
- ・翼手目は、最近の調査で新たに6種が加えられ10種となった（山口ほか, 2002）。コウモリ類の多くは環境省レッドデータブック（環境省, 2002）において絶滅の危険性の高いことが指摘され、丹沢で生息が確認されたヤマコウモリ、ヒナコウモリ、チチブコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリは、絶滅危惧Ⅱ類に挙げられている。なかでもチチブコウモリは、本州では極めて稀な種である。コキクガシラコウモリとユビナガコウモリは選定はされていないが、丹沢では少数が確認されているのみであることから、前種らと同様に貴重な種と言える。キクガシラコウモリの記録は1960年代の報告のみで、現在は確認されていないことから、丹沢では生息していない可能性がある。
- ・近年の生息状況に変化がみられた種として、タヌキは1990年頃から神奈川県において流行りだした疥癬症（2003, 神奈川県野生動物サポートネットワーク）の影響で、一時減少傾向にあったとみられるが、最近では罹患していない個体の目撃例が増えていることから、個体数の回復が進んでいるものと思われる。テンとアナグマの目撃例は増えているが、イタチやキツネのように肉食性の強い種は減少傾向にあるものと思われる。外来種は増加している。ハクビシンは既に広い範囲で生息が確認されており、最近ではアライグマの記録が増えつつあることから、両種による生態系に与える影響が心配される。
- ・樹上性の哺乳類として、ムササビ、モモンガ、ヤマネなどは最近の巣箱による調査で広く分布することがわかってきたが（山口ほか, 2004; 山口, 2007; 安藤ほか, 2007）、ニホンリスは広く分布するが個体数は少ないものと思われる。ニホンザルの個体群は、東丹沢で8群あり、全体で500頭弱が山麓部に生息するが、西丹沢は丹沢湖個体群と呼ばれる15頭前後の1群のみである。
- ・丹沢山地には本州に生息する大型哺乳類のすべてが生息する。イノシシは最近では増加傾向にあると考えられ、掘りあとやスタ場は山麓を中心に比較的良好に見かける。カモシカは広く、薄く分布するが（山口ほか, 1998）、増えすぎたニホンジカの採食圧による影響が心配される。ツキノワグマは少数が生息しているため、分布の孤立化や狩猟圧などによる個体群の衰退に注意が必要である。

### 凡例

- ・分類、種名、学名、配列順は、日本の哺乳類（阿部ほか, 2005）によった。
- ・筆者以外の確認記録は、日付の後に確認者名を入れた。
- ・前回の総合調査で用いた種名カゲネズミについては、本種はスミスネズミと形態に差がなく、最近の見解では同種と考えられていることから、今回は後者の種名を採用した。また、捨てられたと思われるカイウサギは、野生化の可能性が低いため今回は除外した。

### 食虫目（モグラ目）Insectivora

#### トガリネズミ科 Soricidae

#### カワネズミ *Chimarrogale platycephala* (Temminck)

世附川流域、中川川流域、玄倉川流域、中津川（清川村）流域などで確認されている。山間の沢や河川に広く分布していると考えられるが、堰堤工事や林道工事による流れの分断や沢の環境の変化により減少している可能性がある。養魚場に居ついて、稚魚を捕食することもある。玄倉川支流雨山沢（2002.1.6）中川川支

流大滝沢支流鬼石沢（2006.4.28, 30, 5.13 確井昭司氏）、世附日陰沢（2006.6 初旬 半場良一氏）、パラシマ沢（2006.4 初旬 半場良一氏）などで記録がある。

#### ニホンジネズミ *Crocidura dsinezumi* (Temminck)

地表の落葉層で生活するトガリネズミの仲間。山麓の農耕地や住宅地周辺から山間の森林内まで分布している。確認例は多くはないが、広い範囲に普通に生息しているものと思われる。山北町の中川・高松・丹沢湖畔、厚木市七沢などで記録がある（山口, 2003）。

### モグラ科 Talpidae

#### ヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* True

比較的高標高地の土壌の薄い森林に生息する小型のモグラ類で、過去に標高1000m以上の蛭ヶ岳・犬越路（小林・北原, 1968）、檜洞丸（小林・山口, 1971）で記録されている。近年の調査では見つかっておらず（山口, 2003）、今回の調査でも確認されなかった（中山・若代, 2007）。近縁種のヒミズとの競合により、岩礫地に追いやられ、分布が狭くなっているものと思われる。

#### ヒミズ *Urotrichus talpoides* Temminck

落葉層で半地下性の生活をする小型のモグラ類。最高峰の蛭ヶ岳山頂から山麓まで広く分布する（山口, 2003）。他の動物に襲わ

1) 神奈川県立丹沢湖ビジターセンター

れたと思われる死体が、登山道上で見られることがある。

#### アズマモグラ *Mogera imaizumii* (Kuroda)

山麓の農耕地から山間まで広く分布する。土を掘り起こした「モグラ塚」がよく見られる。

### 翼手目 (コウモリ目) Chiroptera

#### キクガシラコウモリ科 Rhinolophidae

##### キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber)

柴田 (1964) の目録に、ミカドキクガシラコウモリとしてあげられ、柴田・田代 (1962)、柳川 (1965) に善波峠の記録があるが、ほかの記録はなく現在の生息状況は不明である。

##### コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* Temminck

宮ヶ瀬の洞穴で記録があり、捕獲調査により札掛でも確認されている (山口ほか, 2002; 山口・山口, 2005)。いずれも越冬期の記録で、これらの繁殖場所についてはわかっていない。西丹沢ではまだ確認されてなく、個体数は少ないものと思われる。

#### ヒナコウモリ科 Vespertilionidae

##### モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus* (Temminck)

酒匂川流域の都夫良野から川西と丹沢湖、玄倉川流域で生息が確認されている (山口ほか, 2002)。昼間は隧道などで休息し、暗くなると川面を飛ぶ姿が見られる。繁殖場所はまだまだわかっていないが、周年観察されている。今後の調査で、他の地域でも確認される可能性がある。

##### イエコウモリ (アブラコウモリ) *Pipistrellus abramus* (Temminck)

山麓の民家周辺では普通に見られるが、山間の森林には生息していない。山北町役場付近 (2006.9.1) と丹沢湖 (2004.9.8) の建物で保護された幼獣を確認しており、その周辺では夜間、外灯の周りを飛ぶ姿を確認できる。

##### ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* Thomas

山間での記録はないが、2002年3月に松田町の神社のケヤキの大木で30頭ぐらいの冬眠ねぐらが見つかった (山口, 2004)。そこから出た個体が松田山を飛ぶ姿を目撃している。春には姿を消すため、繁殖場所についてはわかっていない。

##### ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (Peters)

秋から春にかけて記録されている。清川村から山北町にかけて数か所の冬眠場所が確認されている (山口ほか, 2005) が、冬眠明けから夏の生活域はわかっていない。秋、本種と思われる鳴き声が丹沢の各所の上空から聞かれることから、広く生息している可能性がある。

##### チチブコウモリ *Barbastella leucomelas* (Cretzschmar)

玄倉川流域の隧道で2001.11.25に1頭が確認されているのみである (山口ほか, 2002)。県内ではこの一例のみで、本州では十数個体しか記録がない (阿部ほか, 2005)、希少な種である。

##### ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* (Hodgson)

柴田・田代 (1962)、柴田 (1964) の目録に掲載されていたが、詳しいことは不明であった。近年、玄倉川の隧道内で春と秋に不定期に数頭が確認され、2004.10.30には最大約105頭の群れが見られた (山口, 2006)。他の場所では確認されていない。

##### テングコウモリ *Murina hilgendorfi* (Peters)

玄倉川の隧道内で春～夏と秋に休息しているのが確認されているのみで、繁殖および冬眠は確認されていないが (山口, 2006)、本来は樹木を利用する種なので、周辺の森林で行っているものと思われる。他の場所では、山北町神縄産の標本や (Yoshiyuki, 1989)、1996.7.16 秦野市寺山 (諸戸) で渡辺憲子氏による死体拾得例がある (浜口ほか, 1997)。

##### コテングコウモリ *Murina ussuriensis* Ognev

玄倉川の隧道内で春と秋に確認され、堂平では夏季に死体 (山口ほか, 2002) と秋季にマルバダケブキの枯れ葉の中で休息中の個体が確認されている (2005.9.30 高桑正敏氏)。

### 霊長目 (サル目) Primates

#### オナガザル科 Cercopithecidae

##### ニホンザル *Macaca fuscata* (Blyth)

東丹沢の山麓を中心に生息する8群と、離れて西丹沢の丹沢湖周辺に15頭前後の1群が生息する。丹沢地域個体群は、9群500頭弱と推定されている (神奈川県緑政課)。ハナレザルは広

い範囲に出現する。丹沢湖の群れは、箒沢辺りから湯触辺りまでの集落周辺を巡りながら移動し、集落から離れることは稀である。

### 食肉目 (ネコ目) Carnivora

#### イヌ科 Canidae

##### キツネ *Vulpes vulpes* (Linnaeus)

繁殖記録としては、玄倉で成獣1頭と幼獣2頭のいる巣を確認しており (1996.6)、宮ヶ瀬宮ノ平では幼獣の轢死体が確認されている (2004.6.19 滝井暁子氏)。他に、世附大又沢 (2004.11.17 18:30 山口尚子氏)、丹沢湖畔 (2006.9.20 鈴木一子氏) で目撃されている。自動撮影カメラによる調査では、愛川町海底 (2006.6.27 長縄今日子氏)、玄倉の丹沢湖ビジターセンターの裏 (2006.12.30) で記録された。糞や足跡などの痕跡を見ることは少なく、個体数は少ないと考えらる。

##### タヌキ *Nyctereutes procyonoides* (Gray)

全域に普通に生息する。疥癬症により一時期減少したものと思われるが、最近では感染し罹患した個体が見られることは少なくなり、夜道での目撃例も増えてきたように感じられる。

##### オオカミ *Canis lupus* (Linnaeus)

日本では明治年間に絶滅した種で、丹沢の個体群も同時期に絶滅したと推定されている (中村, 1995)。厚木市、清川村、秦野市の山麓では、民家に保存されていた頭骨や前肢が発見されている (柴田・田代, 1962; 小原, 1990a; 小原, 1990b)。

##### イヌ *Canis familiaris* (Linnaeus)

捨てられたりはぐれたりした猟犬や飼犬が野生化、あるいは半野生化している。以前はシカを襲っている個体も確認されていたようだが、最近の状況はよくわからない。

#### クマ科 Ursidae

##### ツキノワグマ *Ursus thibetanus* (Cuvier)

全域に広く分布する。夏の終わりから秋にかけて、木の実などを求めて里に降りてくる。目撃例は毎年数件はあるが、2006年の秋は比較的多く、厚木市飯山では家屋に侵入した個体が捕獲され奥山に放された。また、山北町では足跡やクマ棚が民家近くで確認された。この年はナラ類やミズキ類など、木の実の成りが悪かった。

#### アライグマ科 Procyonidae

##### アライグマ *Procyon lotor* (Linnaeus)

北・中米原産で飼育用に輸入された個体が逃げ出したり、捨てられたりしたものが野生化し、各地で増えている。特定外来種に指定されている。丹沢周辺では、以前から単発的な確認例はあったが、今回の調査で山麓の広い範囲に生息していることがわかった (長縄・中山, 2007)。

#### イタチ科 Mustelidae

##### テン *Martes melampus* (Wagner)

全域に広く分布し、林道や登山道に、本種のものと思われるサルナシやキブシの種子の入った糞をよく見かける。近年、夜道に現れることが多くなり、交通事故例は少ない。堂平のブナ林で死体を確認 (2004.4.20)、玄倉ではシカの死体を食べにやってくる個体が (2006.12.)、犬越路では獣道を通る個体が (2006.12.21)、自動撮影カメラで記録された。東沢林道で1頭が道を横切る (2003.12.3)。

##### イタチ *Mustela itatsi* (Temminck)

山麓から山間の主に水辺周辺に生息するが、姿を見ることは少なく、痕跡もあまり見かけない。丹沢湖畔や山麓の水田付近で目撃している。

##### オコジョ *Mustela erminea* (Linnaeus)

黒田 (1940) に、蛭ヶ岳産の雄冬毛の標本が記載されており、柴田 (1964) には、戦前にイタチ用の罠にかかったという伝聞と村山健治氏が犬越路で観察した記録が取りあげられている。近年の記録はなく、現在は絶滅した可能性が高い。

##### アナグマ *Meles meles* (Linnaeus)

山麓から稜線部のブナ林まで広い範囲に生息する。登山道脇に糞をよくみる。住宅地の庭にも現れ (山北町山北 2005.4.7)、交通事故例も少ない (山口, 2001) (丹沢湖畔 2004.10.24、宮ヶ瀬 2006.6.8/22 長縄今日子氏)。

## カワウソ *Lutra lutra* (Linnaeus)

絶滅種。丹沢周辺では、昭和初期まで捕獲や生息の記録が東丹沢の中津川や厚木市荻野地区である(神奈川県立生命の星・地球博物館編, 2003)。

## ジャコウネコ科 Viverridae

### ハクビシン *Paguma larvata* (Smith)

東南アジアに分布する外来種とみられている(阿部ほか, 2005)。1958年に大又沢で捕獲された個体が(今泉ほか, 1964)、県内で最初の記録である。山麓の住宅地から山中の自然林まで広く分布している。西丹沢では、交通事故に遭う野生哺乳類の中で最も多い(山口, 2001)。神縄で4頭が柿の木に登り実を食べる(2003.12)。

## ネコ科 Felidae

### イエネコ *Felis catus* (Linnaeus)

夜間、山間の林道沿いで見られることがあるが、山麓で見られる個体の多くは半野生生活しているものと思われる。飼育個体との区別は難しい。平成18年6月頃から檜丸山頂の青が岳山荘に居つき登山者に餌をもらうネコがあり、同年12月にも目撃されている。

## 偶蹄目 (ウシ目) Artiodactyla

### イノシシ科 Suidae

### イノシシ *Sus scrofa* Linnaeus

山麓部を中心に分布している。主に夜間に行動するため姿を見ることは稀だが、採食のために土を掘り返したあとや、ヌタ場、糞などはよく見られる。里では農作物に被害が発生している。

## シカ科 Cervidae

### ニホンジカ *Cervus nippon* Temminck

本来は山麓から平地に分布していたと考えられているが、現在は山頂まで丹沢全域に広く分布し、個体数も多い。ほぼ全域で高い採食圧による林床の裸地化や樹皮喰いによる樹木の立ち枯れなどを起こし、山麓では農作物被害が恒常的に発生している。

## ウシ科 Bovidae

### カモシカ *Capricornis crispus* (Temminck)

全域に広く分布するが、個体数は少ない(山口ほか, 1998)。増え過ぎたシカの採食圧により、カモシカの採餌環境は悪化しているものと思われる。春先に衰弱した個体が保護されたり死体が発見されたりすることは珍しくなく、西丹沢で多い傾向がある。

## 齧歯目 (ネズミ目) Rodentia

### リス科 Sciuridae

### ニホンリス *Sciurus lis* Temminck

山麓から山頂付近まで、全域の広い範囲に生息しているが見られる機会は少なく、個体数は少ないと考えられる。マツやモミなど針葉樹林で見られることが多い。表丹沢県民の森(2004.11.29 山口尚子氏)、丹沢湖畔(2006.11)。

### ムササビ *Petaurista leucogenys* (Temminck)

山麓から山頂付近まで、全域に広く分布する。スギの植林地にも普通に生息し、巣箱をよく利用する(山口ほか, 2004; 山口, 2007)。水無川竜神の泉付近のケヤキの枝に2頭(2003.8.13 山口尚子氏・蓮田弘美氏)。日向薬師の本堂から1頭が出る(2005.1.17)。切通峠付近にて広葉樹の巣穴から顔をだしている本種を確認(2006.5.4 半場良一氏)

### ニホンモモンガ *Pteromys momonga* Temminck

山麓から山頂付近まで全域に広く分布し、スギ・ヒノキ林、二次林、モミ林、ブナ林など様々な林に生息している(山口, 1997; 山口ほか, 2004; 山口, 2007)。ムササビと同所的に生息する。

## ネズミ科 Muridae

### スミスネズミ *Eothenomys smithii* (Thomas)

主に中腹域の湿った沢沿いや岩のある林などに生息するが、捕獲調査による捕獲率は0.81%と低く、個体数は少ないものと思われる(山口, 2003)。

### ハタネズミ *Microtus montebelli* (Milne-Edwards)

普通は平地の耕作地や河原などに生息する種であるが、丹沢で

は過去に塔ノ岳(今泉ほか, 1964)、檜丸・蛭ヶ岳(小林・山口, 1971)の山頂付近で記録されている。最近の調査では、丹沢山山頂(1550m 付近)や山麓の耕作地で記録されているが個体数は少ない(山口, 2003)。

### カヤネズミ *Micromys minutus* (Pallas)

山麓の水田周辺や川原などのイネ科草地に生息するが、大野山山頂(650m 付近)の牧場でも記録されている(山口, 2003)。名古木の谷戸(長縄・山口, 2006)や県立戸川公園周辺で記録されている。丹沢では、かつてカヤ場が尾根の所々にあったので、そのころは中腹域にも広く分布していた可能性がある。

### アカネズミ *Apodemus speciosus* (Temminck)

山麓から山頂の草地や林に広く分布し、個体数は多い。下層植生の発達した環境を好む(山口, 2003)。

### ヒメネズミ *Apodemus argenteus* (Temminck)

山麓の林から山頂の林まで広く分布する。アカネズミとともに個体数は多く、本種は高木層の発達した林に優占して生息している(山口, 2003)。

### ドブネズミ *Rattus norvegicus* (Berkenhout)

外来種。山麓の民家周辺に生息している。

### クマネズミ *Rattus rattus* (Linnaeus)

外来種。山間の家屋で記録されている。

### ハツカネズミ *Mus musculus* Linnaeus

外来種。山麓の住宅地周辺に生息している。

## ヤマネ科 Gliridae

### ヤマネ *Glirulus Japonicus* (Schinz)

山麓からブナ林にかけて広く分布し、自然林を好むが、手入れの行き届いたスギやヒノキの植林地にも生息する(山口, 1999; 山口, 2007)。生息が確認されている最低標高地は煤ヶ谷の約160m、最高標高地は三国山の約1300m(1985.2.10 自然環境保全センター傷病保護記録)。山小屋に入り込むこともある(ユージン 2006.1.28 入野彰夫氏)。

## 兎目 (ウサギ目) Lagomorpha

### ウサギ科 Leporidae

### ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* Temminck

ほぼ全域に広く分布する。姿が見られることは稀だが、食痕や糞は草地や林縁、若齢の植林地などでよく見かける。玄倉林道(2004.5.28)、轢死体が宮ヶ瀬ダム付近の県道(2003.5.5 長縄今日子氏)と県道秦野清川線(2004.12.14 長縄今日子氏)で目撃されている。山北町中川の林内で自動撮影カメラに写る(2006.12.20)。

## 文 献

阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2005. 日本の哺乳類改訂版. 206pp. 東海大学出版会, 神奈川.

安藤元一・太田真琴・吉田竜太郎・大久保慶信・鈴木 圭, 2007. 地上性・樹上性の中小型哺乳類. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書. (財)平岡環境科学研究所, 相模原.

浜口哲一・平田寛重・山口喜盛・青木雄司, 1997. 丹沢山地の哺乳類・爬虫類・両生類. 神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査団企画委員会編, 丹沢大山自然環境総合調査報告書 丹沢山地動植物目録, pp.1-5. 神奈川県環境部, 横浜.

今泉吉典・吉行瑞子・小原 巖, 1964. 丹沢山塊の小哺乳類. 国立公園協会編, 丹沢大山学術調査報告書, pp.343-349. 神奈川県.

神奈川県立生命の星・地球博物館編, 2003. かながわの自然図鑑 3 哺乳類. 138pp. 有隣堂, 横浜.

神奈川県野生動物サポートネットワーク, 2003. 神奈川県下のタヌキ保護個体における疥癬の発生状況. 神奈川自然誌資料, (24):71-76.

環境省, 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—1 哺乳類. 177pp. 自然環境研究センター, 東京.

- 小林峯生・北原正宣, 1968. ヒメヒミズの新産地. 哺乳動物学雑誌, 4(2): 60-61.
- 小林峯生・山口佳秀, 1971. 丹沢山塊におけるヒメヒミズ *Dymecodon piriostriis* True の分布と小哺乳類相について. 神奈川県立博物館調査研究報告 自然科学, (4): 1-23.
- 黒田長禮, 1940. 原色日本哺乳類図説. 322pp. 三省堂, 東京.
- 長縄今日子・中山文, 2007. 丹沢山麓におけるアライグマの分布と防除の現状について. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書. (財)平岡環境科学研究所, 相模原.
- 長縄今日子・山口喜盛, 2006. 名古屋の水生生物・ほ乳類と野の花たち, pp.22-31. 夢工房, 神奈川県.
- 中村一恵, 1995. 哺乳類. 神奈川県レッドデータ生物調査団編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, 157-170pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 中山文・若代彰路, 2007. 檜洞丸付近におけるヒメヒミズについて. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書. (財)平岡環境科学研究所, 相模原.
- 小原 巖, 1990a. 神奈川県厚木市および愛甲郡清川村の民家に保存されているニホンオオカミの頭骨. 神奈川自然誌資料, (11): 53-65.
- 小原 巖, 1990b. 神奈川県愛甲郡清川村の民家に保存されているニホンオオカミの前肢. 神奈川自然誌資料, (11): 67-69.
- 柴田敏隆, 1964. 丹沢山塊の哺乳動物. 国立公園協会編, 丹沢大山学術調査報告書, pp.338-343. 神奈川県.
- 柴田敏隆・田代道弥, 1962. 丹沢の哺乳動物. 丹沢 - その自然と山歩き, pp.136-150. 全国林業改良普及協会, 東京.
- 山口尚子・山口喜盛, 2005. 神奈川県西部におけるコキクガシラコウモリの分布状況. 神奈川自然誌資料, (26): 45-48.
- 山口喜盛, 1997. 神奈川県・丹沢山地のモモンガ・ムササビ・リスとムササビ, (2): 8-9.
- 山口喜盛, 1999. コウモリ用巣箱を利用した丹沢山地のニホンヤマネについて. 平塚市博物館研究報告「自然と文化」, (22): 27-37.
- 山口喜盛, 2001. 山北町における野生哺乳類の交通事故死. 神奈川自然誌資料, (22): 25-28.
- 山口喜盛, 2003. 丹沢山地における小哺乳類の生息状況. 神奈川自然誌資料, (24): 77-84.
- 山口喜盛, 2004. 酒匂川流域で発見されたヤマコウモリの冬眠樹洞について. 神奈川自然誌資料, (25): 7-11.
- 山口喜盛, 2006. 丹沢山地玄倉川流域におけるコウモリ類の隧道利用の季節変動. 神奈川自然誌資料, (27): 45-49.
- 山口喜盛, 2007. 巣箱設置による樹洞性哺乳類調査. やどりき水源林県民参加のモニタリング調査報告書.
- 山口喜盛・中村道也・渡辺憲子, 1998. 丹沢山地におけるニホンカモシカの生息状況. *Binos*, 5: 23-30.
- 山口喜盛・曾根正人・永田幸志・滝井暁子, 2002. 丹沢山地におけるコウモリ類の生息状況. 神奈川自然誌資料, (23): 19-24.
- 山口喜盛・曾根正人・山口尚子・渡辺直子, 2005. 神奈川県で見つかったヒナコウモリの冬眠集団について. 神奈川自然誌資料, (26): 49-51.
- 山口喜盛・湯沢義信・湯沢八千代, 2004. ひとつの巣箱を利用した動物たち. リスとムササビ, (14): 8-10.
- 柳川定春, 1965. 市内の哺乳類. 秦野の文化財, (1): 31-35.
- Yoshiyuki, M., 1989. A systematic study of the Japanese Chiroptera. 242pp. Natl. Sci. Mus., Tokyo.